

第3回ミニシンポ

機能性バイオ：新たな分野の開拓とその進捗

日時：2017年11月20日（月）13:00～18:30+交流会

場所：東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト

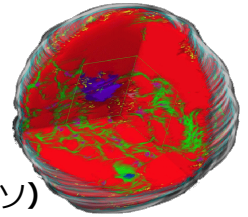
※つくばエクスプレス「柏の葉キャンパス駅」西口より北へ徒歩1分

主催：TIAかけはし研究「機能性バイオ」グループ

共催：東京大学・機能性バイオ研究支援フォーラム

筑波大学・藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター（ABES）

産総研・生物資源と触媒技術に基づく食・薬・材創生コンソーシアム（食触コンソ）



・はじめに～新たな開拓へ向けて（13:00～13:10）

三谷啓志（東京大学・院・新領域・研究科長）

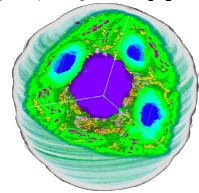
・Part 1（13:10～14:10） 座長：大矢禎一（東京大学・院・新領域・先端生命）

メダカ健康科学 [30min]

尾田正二（東京大学・院・新領域・先端生命）

ジェロントロジー（総合老年学）から考えるまちづくり [30min]

高橋競、飯島勝矢（東京大学・高齢社会総合研究機構）



・Part 2（14:10～15:40）

座長：河野重行（東京大学・FC推進機構）

重イオンビーム育種技術を用いたワカメの優良系統開発と事業化にむけた課題

佐藤陽一（理研食品・原料事業部、理化学研究所・生物照射チーム）[30min]

単細胞性緑藻Coccomyxa属の機能性物質生産性改良のためのセルフクロニング

笠井由紀（中央大学・研究開発機構）[30min]

藻類バイオマスの効率生産と高性能プラスチック化による協働低炭素技術の開発

門脇和男（筑波大学・ABES・センター長）[30min]

・コーヒースタイル（15:40～16:10）

・Part 3（16:10～17:40）

座長：富永健一（産総研・触媒センター）

バイオマス変換酵素の分子メカニズムからバイオエコノミーの実現を目指す [30min]

五十嵐圭日子（東京大学・院・農学生命、VTTフィンランド技術研究センター）

バイオ界面活性剤の生産と利用技術の開発 [30min]

森田友岳（産総研・機能化学研究部門・バイオケミカルグループ）

食薬資源機能性解析と触媒化学技術の融合研究 [30min]

磯田博子（筑波大学・生命環境系/北アフリカ研究センター、産総研・触媒センター）

・特別講演「タンパク質リジン残基の脂質修飾を介した代謝制御機構」（17:40～18:20）

吉田 稔（理研・環境資源科学研究センター・ケミカルゲノミクス研究グループ）[40min]

・おわりに～TIAかけはしと機能性バイオ研究支援フォーラムについて（18:20～18:30）

平嶋隆二（東京大学・TKHiC推進準備室）

河野重行（東京大学・FC推進機構）



交流会（18:40～20:00） 2階ラウンジ

※上記のミニシンポをTIAかけはし研究「機能性バイオ」グループの主催で開催します。参加は無料です。ミニシンポ後には交流会（18:30～20:00）を予定しています。交流会の参加費は、一般3,000円、ポスドク・学生1,000円で、当日会場にて徴収します。ミニシンポおよび交流会への参加は、11月14日（火）までに、ホームページ <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/functionalbiod/> で申し込み下さい。当日参加も歓迎します。ご質問や連絡は下記の世話人や連絡先にメールで問い合わせてください。なお、上の二つの図は、ヘマトコッカス藻の電顕3Dの断面です。

<世話人>

河野重行（東京大学・FC推進機構） kawano@edu.k.u-tokyo.ac.jp

門脇和男（筑波大学・ABES） kadowaki@ims.tsukuba.ac.jp

富永健一（産総研・触媒センター） k-tominaga@aist.go.jp

参加連絡先：竹下 毅（東京大学・FC推進機構） t.takeshita@edu.k.u-tokyo.ac.jp

